

愛玩動物診療現場における抗菌剤の慎重使用の取組

株式会社 VDT

伊従 慶太

2016年に本邦で決定した「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2016-2020」は、従来実施していなかった愛玩動物における薬剤耐性の動向を把握することを求めており、2020年に農林水産省より「愛玩動物における抗菌薬の使用手引き 2020」が発表された。犬や猫の診療現場において細菌感染症の発生頻度は極めて高く、抗菌薬による全身療法は全国の動物病院で日常的に行われている。過去の獣医学療育の調査では、2009年から2013年にかけて犬と猫の推定飼育頭数は減少傾向にあったものの、動物用抗菌薬の推定販売量は約3倍になったことが示されている。私の従事する獣医皮膚科臨床領域においてもAMRは世界的な問題となっており、欧米においては犬の細菌性皮膚疾患を対象とした抗菌薬使用ガイドラインが複数発表されている。2007-2009年に愛玩動物二次診療施設で行われた犬の皮膚由来ブドウ球菌（*Staphylococcus pseudintermedius*）を対象とした本邦における調査では、分離140株のうち66.5%がメチシリン耐性株であったことが報告された後、一次診療施設におけるメチシリン耐性 *S. pseudintermedius* の分離率も年々上昇傾向にある。一方で、国内における研究調査数が不十分であることから、本邦独自の犬や猫の皮膚細菌感染症に対する抗菌薬使用ガイドラインの作成には現在までに至っていない。先述の愛玩動物における抗菌薬の使用手引きにもあるように、本邦における愛玩動物診療現場における薬剤耐性菌の動向のモニタリングおよび抗菌薬の適正使用対策は急務であり、獣医師および獣医療従事者には大きな社会的責任があると考えられる。我々のグループでは、自転車操業ではあるものの、動物病院への適切な細菌検査およびアンチバイオグラムの提供、本邦薬剤耐性菌動向のモニタリング、獣医療関係者およびペットオーナーへの抗菌薬適正使用に関する啓蒙活動、抗菌薬に代替する治療法の開発等を通じて、獣医学領域のAMR対策を行ってきた。本講演では、我々の近年のAMRへの取組と今後の展望について紹介したい。